

令和 7 年豊能町議会12月定例会議
総務建設常任委員会

会 議 録

令和 7 年12月 4 日（木）

豊 能 町 議 会

令和 7 年豊能町議会12月定例会議
総務建設常任委員会

年 月 日 令和 7 年12月 4 日（木）

場 所 豊能町役場 大会議室

出席委員 6 名

池田 忠史 西 美江 高野 光一
才脇 明美 中川 敦司 秋元美智子

欠席委員 なし

委員外出席 永 並 啓（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上 浦 登	副 町 長	高 木 仁
政 策 監	大西 隆樹	総 務 部 長	入江 太志
総務部理事兼税務課長	桑原 康男	都市建設部長	坂田 朗夫
都市建設部理事	大利 元樹	都市建設部次長	田中 克生
総合政策課長	山 内 拓	広報職員課長	奥 文 彦
総 務 課 長	田中 久志	行 財 政 課 長	寺倉 義浩
建 設 課 長	吉 澤 亘	農林商工課長	中谷 康彦
環 境 課 長	中 井 哲	吉 川 支 所 長	清 水 義 和
会 計 管 理 者	石 井 慎 子		

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 平 田 旬

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 令和7年豊能町議会12月定例会議付託案件について

- ・ 第61号議案 猪名川上流広域ごみ処理施設組合理約の一部を変更する協議について
- ・ 第62号議案 令和7年度豊能町一般会計補正予算（第7回）の件（関係部分のみ）

2. その他

午前9時30分 開会

○委員長（池田忠史君）

おはようございます。

今回、委員が代わりまして、初めての委員会となります。委員が代りましても、審査については何も変わりませんので、厳正なる審査をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

理事者の皆様におかれましても、簡潔な答弁をよろしくお願いいたします。

では座らせていただきます。

ただいまの出席委員は、6名であります。定足数に達しておりますので、総務建設常任委員会を開会いたします。

委員会開会に当たりまして、町長より御挨拶がございます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

おはようございます。

本日は、お忙しい中御参集いただきまして誠にありがとうございます。

本日の総務建設常任委員会ではですね、第61号と第62号の関係部分につきまして御審査をいただくこととなっております。

詳細に御審査いただきまして、委員の皆様方に御理解を賜りたいと存じますので、よろしくお願いをいたします。

簡単ではございますが、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。

それでは、何とぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長（池田忠史君）

これより本日の会議を開きます。

本日の審査事項は、御手元に配付のとおりでございます。

1. 令和7年豊能町議会12月定例会議付託案件についてを議題といたします。

第61号議案、猪名川上流広域ごみ処理施設

組合規約の一部を変更する協議についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

おはようございます。環境課、中井です。よろしくお願いいたします。

それでは、第61号議案、猪名川上流広域ごみ処理施設組合規約の一部を変更する協議について御説明申し上げます。

議案書のほうは、27ページになります。

着座にて失礼いたします。

本件は、地方自治法第286条第2項の規定により猪名川上流広域ごみ処理施設組合規約を変更するため、本規約案に基づき、兵庫県川西市、兵庫県川辺郡猪名川町及び能勢町と協議を行うものです。

提案理由としましては、国崎クリーンセンター基幹的設備改良事業及び包括管理運営業務に伴い、猪名川上流広域ごみ処理施設組合規約の一部を変更する協議について、地方自治法第290条の規定により議会の議決を経る必要があるため本案を提出するものです。

続きまして、規約（案）と新旧対照表を御覧ください。

変更内容を要約して申し上げますと、現行の規約に負担区分は3種類ございますが、既に事業が終了している基本計画経費と施設建設経費のこの二つを廃止し、施設管理経費については変更を行うとともに、新たに基幹的設備改良経費を設けて負担区分を2種類にするものです。新たに設ける負担区分は、「基幹的設備改良経費」です。

経費の概要としましては、「基幹的設備改良事業に係る経費」で、負担割合は、「平成21年度から令和6年度までの搬入ごみ量の比率により按分して負担する。」です。

基幹的設備改良事業は、将来に向けての焼却とリサイクルに係る更新事業であることか

ら、一市三町がこれまで使用してきた平成21年度から令和6年度までに搬入したごみ量による按分が適当とされたものです。

こちらの施行日は、令和8年4月1日です。

また、施設管理経費の負担区分については、「施設管理・運営経費」に、経費の概要は、「施設完成後の経費」から、「施設管理・運営に係る経費」に。負担割合は、「年度ごとの関係市町の搬入可燃ごみの比率により按分して負担する。」から、「年度ごとの関係市町の搬入ごみ量の比率により按分して負担する。」にそれぞれ変更するものです。

施設管理・運営経費については、可燃ごみだけではなく資源ごみも含まれることから、搬入ごみ量での按分が適当と整理されたものです。

噛み砕いて申し上げますと、国崎クリーンセンターに支払うごみ処理負担金の按分率を、可燃ごみ量から搬入ごみ量の比率に変更するものです。

こちらの施行日は、令和14年4月1日です。

本件につきましては、同組合を構成する一市三町の首長により、合意形成されたものです。

御説明は、以上でございます。よろしくお願いたします。

○委員長（池田忠史君）

これより本件に対する質疑を行います。

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

これ、今回提示いただいている資料とか、議案書も見させていただいてるんですが、ものすごく分かりにくい。分かりにくいんです。現状がこうで、こうなるというふうなところと、あと今の説明でいくと、この改正前の例えば基本計画経費、こういったものはもう今回終了になるので、なくなるみたいな、そういう御説明もありましたけども、もう少し分

かりやしくならないのかなあと思ってるのと、あと、この基本計画経費というのは、今回終了ですということだけど、これはどういうタイミングでこのいわゆる経費の負担割合、例えばこれ人口の割合でやってましたというのはどういうタイミングでやってたのかいうふうなところもあわせてお伺いできますか。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

まず廃止になる負担割合なんですけれども、国崎クリーンセンターの建設準備と建設に係る経費、用地の取得ですとか建設工事、あるいは起債の償還等に係る経費でございまして、これらにつきましては、もちろん事業が終了しておりますので、起債の償還も終わっておりますので、こちらの負担区分については削除するという、そういうことでございます。

新たに設けますのが、基幹改良設備工事というものが、新たに出てきますので、それに対する負担割合を新たに設けるもの。それから、ごみ処理に係る経費につきましては、今までは可燃ごみで按分してたものを、総ごみ量での按分に変更するという、そういうものでございます。元々三つありましたものを二つ削除しまして、一つは変更する、もう一つは新たに設けるということで、三つあったものを二つ削除して一つ新たに設けて、最終的には二つになるという、そういう形のものでございます。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、今回終了するという一つですかね、基本計画経費というのは、先ほど説明あったとおり、いろいろと建設をするに当たる準備的なそういうふうな部分での経費ということなので、そういった意味では、一応

こういうふうな、人口割でこれは負担してもらふっていうふうなルールになってたけども、実際のところ、例えば去年度、令和6年度とか令和5年度とかに、こういう部分のいわゆる基本計画経費というふうなものでは、いわゆる負担をする部分はなかったみたいなことなの。それとも、負担してたのかその辺り、ちょっと質問したいと思います。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

当初の計画ですとか、当然そのときには人口比率によるものということです、その区分に応じた負担ということになるんですけども、今後の基幹改良経費につきましては、これまで積み上げてきた実績といいますか、国崎クリーンセンターができてから令和6年度までの各市町のそれぞれの排出ごみ量というのを全て把握しておりますので、それに基づいたものが一番公平、平等であろうということで、数値を新たに設けるというふうな、そういう形のものでございます。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

結局、令和6年度とかは、この基本計画経費っていうふうなものでの負担してる部分はなかったのですかみたいな、そういう問いかけだったんですけども、多分そういう何か新たなことを計画とかいうのはあったのかどうかあれですけども、多分大きな工事をするとかいう計画とかそんなのは、もしなかったとしたら多分これゼロ円のはずなんですけど、そういうふうな質問なんです。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

申し訳ございません。委員おっしゃるとおりですね、その分についての負担というのとはございませんでした。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、こういう1番の基本計画経費というのはこの近々の最近のところではゼロ円だったからそういった意味では、二つ目とか三つ目の可燃ごみの量によって、按分された部分を豊能町としては負担してた、ということによろしいんですね、この近年は。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

一つ目と二つ目の負担区分につきましては、もう負担してない状態にして、今実際現状生きているといいますか、使ってる負担区分と言いますのが、ごみ処理に係る経費の分だけでございまして、いわゆるごみ量での負担というのを、今、各市町がしている状態でございます。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、現状は、実際のところのごみの焼却というような意味で、可燃ごみの比率で按分して、豊能町が負担金を支払ってたというようなことであって、それがこれからの今後の部分ですけども、いわゆる令和8年度からと令和14年度からそれぞれ、いわゆる可燃ごみの比率によってやるのが令和8年から。あと14年からは全ての搬入ごみで按分して、費用を負担しますというようなこと、そういうふうな解釈でよろしいんですね。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

委員おっしゃるとおりでございます。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

幾つか質問なんですけど、まず最初に基幹的設備改良経費、これから始まる事業ですよ。もう既に平成21年から令和6年度までの搬入ごみの比率によって按分するってなってます。これは各四団体どういう形の、数字もう出てますか。どういう負担割なのか。まだ。できてるんでしたら、もうこれ見ると出てるんだと思いますのでお答え願います。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

基幹的設備改良経費の負担割合ですけれども、これは平成21年度から令和6年度までの実績ということになりますので、もう確定しておりますして変わりません。

まず川西市のほうですね、71.38%、猪名川町が14.80%、豊能町が8.56%、能勢町が5.26%でございます。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

さっきも説明されてますけども、今、人口割じゃなくてごみ負担割合にしたというのは、何かおっしゃってましたね、理由を。もう一遍ちょっと聞かせていただけますか。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

そもそもですね、国崎クリーンセンターが建設された当時と言いますのが、当時可燃ごみの中にですね、いろんなごみが混ざってい

たということでした。で、ごみですね、分別を推進して可燃ごみの量を減らしていくという、削減していくというのが一つの大きな目標ということで、ごみ量による按分を用いることによりまして、分別を進め、ごみの減量を図っていくという、そういうことで可燃ごみ量による按分というものが採用されたというふうに聞いております。

しかしながらですね、国崎クリーンセンターのほうにはですね、可燃ごみだけではなく、資源のごみも搬入されておりますので、また、ごみの分別というの、もうかなり浸透してきていること等ですね、踏まえまして、搬入される総ごみ量による按分に変更しまして、構成市町全体としてごみを減らしていくという、そういう意図での変更でございます。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

私は令和2年からの一市三町の資料しか持ってないんですけども、2年と比べると随分やっぱりごみ減ってますよね、全体が。そうなってくると、ほぼさっきおっしゃった数字、1%、2%の差なんですけど、人口と比べた場合ですよ。人口と比べた場合、今お話を聞くと、何か豊能町はそこそこ人口比と同じように思うんですけど、能勢町なんかちょっと負担が増えるっていう理解なんかでいいのかな。今回のこれ。人口比にしないで。

ごめんなさい。じゃ質問変えます。人口割合はどのぐらいになってます、現在。さっきはごみの総量でお答えいただきましたが、可燃ごみじゃなくて、人口割合。

○委員長（池田忠史君）

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫）

おはようございます。都市建設部、坂田です。

国崎クリーンセンターの事務局のほうで、

まずこの負担割合を決めるに当たりまして、現状の可燃ごみでいくのか、全ての総ごみ量でいくのか、人口割合でいくのか、そういった形でいろいろシミュレーションしていただきまして、今の現状に比べて増える増えないというのを、シミュレーションして我々のほうにも提出していただいております。

そういった中で言いますと、まず人口割合といった場合ですが、現状に比べてということで、まず基幹改良とあとこれからの運営、ランニングがあるんですけども、例えばまず最初にイニシャルのほうの、これからかかる建設費用とした場合ですが、それでいくと、現状のこの可燃ごみ量の割合に比べて人口割合にした場合、どれだけ増減があるかですが、豊能町が1,800万ほど、可燃ごみ量の割合でいった場合に比べて人口割にしたほうが増えるというような形。逆に能勢町さんは、7,700万減ると。猪名川町も減ると。川西さんが増えるというそんな感じになっております。細かなこと言いますと、川西市さんが2億ほど増えると、そういったような形になっておる状況です。

そういったことで、人口割合、あと今の可燃ごみ量、総ごみ量でいろいろ按分するわけなんですけど、これも全国的な広域でやってるところもありますのでそういうのをいろいろ検証した結果ですね、本町におきましては、もともと当初から、もう可燃ごみ量でスタートしたという経緯もございますので、そういった形を踏まえて、まずスタート時点も可燃ごみ量でいくというような形でずっとスタートしております。

ただ、国崎クリーンセンターは、可燃ごみだけではなくて、ペットボトルとかその他製品プラとか資源ごみも搬入されておりますので、当時は分別はできてはいなかったと思うんですが、現時点ではもう分別もきちんとどこの市町もできておる状況の中では、やはり

総ごみ量で按分するべきではないかということで、豊能町以外の市町、豊能町と能勢町以外の市町のほうから、そういう話もありまして、最終的に協議を重ねた結果、令和14年から運用、運用いうかランニングのほうについては総ごみ量で、基幹改良についてはもう全て、これまで搬入全部されてきておるので、それを踏まえて可燃ごみ量でいこうかというふうに、ごめんなさい。失礼しました。総ごみ量でいこうかというふうになっておるという状況です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

いろいろ議論された結果だと思うんですけども、単純にこの総ごみ量でいった場合、これからごみ減ってくるのかな。今までもう頑張ってる燃えるごみ量でね、あれしてたから、結構減ってるんですよ。30トンぐらい減ってるかな、令和2年に比べてね、単純に。それって燃えるごみでやってたからの効果かなって思うので、逆に今回、この基幹のほうに向けてですよ、基幹のほうに向けて、総量で出すってことはどうなのかな。今までの豊能町の取組なんかも生かされたのかなあ、四つの町のあれですから。

お尋ねしたいのは。いいですわ。

結果的にこの総量になったということは、総量でなったわけですよ、基幹これから。その割合は、豊能町の場合は8.56ですね。これ、ずっと続いていくわけですね。

はい、分かりました。

ちょっとほかの質問あとでまたしますので、ほかの方どうぞ。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

いわゆる可燃ごみだけを対象にしておった

のが、今後全てのごみっていうふうなことになる、14年度から。それも理解はさせてもらってるんですけども、これまでのいわゆるこのクリーンセンターでのごみの処理のときの負担の割合的にいくと、可燃ごみっていうふうな比率で今までやってきてるようなことでしたけども、豊能町が一生懸命分別やって、例えばそれ以外の例えば川西とかは分別が余り進んでなかったようなことがもしもあったならば、多分そのような時代にあっては、豊能町は結構有利だったのかなと思うんですけども、その代わりに今度可燃ごみ以外のごみも、いわゆるその数量に、この負担割合の中に入れるってことは逆に、豊能町ちょっと、今までと違ってちょっと不利になるのかなと思ったりも私したんですけど、その辺りはどうなのでしょう。数値的には、パーセンテージ的にはそう変わらないかも分かんけども、ちょっとこういう全てのごみを対象にして負担割合を出すとなったら、豊能町としては何か不利になっていくのかなみたいなそんなふうには私受け取ったんですけども、その辺りはどうなのでしょう。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

ごみの減量等につきましてはですね、非常に各市町とも力を入れておられまして、例えば、川西さんなんかでは、最近ちょっとごみの有料化の話なんかも出ておられまして、その影響もありましてか、かなりその可燃ごみ量が減ったというふうなことを伺っております。

ですので、可燃ごみで川西さん非常に大きいのです、川西市のほうで可燃ごみのごみ量が減りますと、ほかの市町への影響がすごく大きくなるということもございまして、ちょっとシミュレーションなんかちょっと見

せていただいたんですけども、可燃ごみだけに固執しておりますと、かなり他の町のほうに影響が及ぶというようなこともございまして、その辺も踏まえまして、全量のほうにということというのも一つの考え方なんですけれども、ただ、当然豊能町の場合ですと人口も減ってきておりますので、当然ごみの量というのは減る傾向にあります。ただ、1人当たりの方が出すごみの単価、単価といいますか現単価ですね、一人が出すごみ量につきまして、これを減らしていくという努力をしていかなければならないというふうに考えておられまして、これは、目標として計画の中で掲げておられますが、ここ2年ほどですね、その目標を達成するような結果になってきておりますので、かなりごみの減量につきましては進んできているのではないかなというふうに考えております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

結局のところ、ごみの量もどんどん川西も減らしてきているというふうなこともあって不利になるっていうふうなこともあって、結局今のこのいわゆる総ごみ量かな、そういった形のものを14年度からやるけどもそれが一番どの市町にとっても好ましい数値になるんじゃないかというようなことでこの案を提示されてるということで、解釈しといたらいいいですか、そしたら。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

委員おっしゃるとおりでございます。ありがとうございます。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

ちょっと現状確認したいんですけどっていうか教えてほしいんですけど。持込みのごみとかありますね、よく電話して私持ち込んで行くんですけど、あれって当然住所やら名前やら聞かれていますけど、あれはちょうど各町のほうにカウントされていくわけですよね、持込みだろうと。

事業系のごみなんかはどうなるんですか。事業系は、川西やら豊能町やらいろいろ回って、一市三町持っていくと思うんですけど、それは事業所の住所によるんですか。事業系のごみの扱いをちょっと教えてください。どういう扱いになってるか、このときのデータの中に。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

事業系のごみにつきましても、回収する市町、それぞれに区分して持込みをされていますので、どこの市町から出たごみなのかというのは、確認された上での集計を行っています。

以上でございます。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

ということは、持ち込む事業者がこれは豊能町から集めてきたものですか、能勢町から集めてきたものだと前もって申告しているという理解でいいですか。だからその町にカウントされて、総量になっていくと。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

ごみの収集運搬につきましては、それぞれの市町で許可制をとっておりますので、その許可に基づいて収集運搬を行っておりますの

で、それに基づいての集計という形になりますので、それぞれの各市町のごみ量として反映をさせていただいてるところでございます。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

確認しますが、豊能町の事業系を集める業者、豊能町のごみしか集められないってことです。だからそのごみは、一市三町持っていくときに豊能町のごみというカウントになるという理解でいいですか。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

委員おっしゃるとおりでございます。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

これからの施設管理の運営費のほうなんですけども、総量ですから、資源ごみも何も減らせば減らすほどいいってことです。

これはちょっと町にお尋ねしたいんですけども、となった場合に要する新聞紙なんかは、町独自でまた集めてますよね。子ども会とか老人会向けに、そちらのほうと、それから一市三町に持ち込んで向こうで多分リサイクルしてると思うんですけど、どちらのほうが町にとっては有利、有利って変な言い方だけど。これ計算できてるならば教えてください。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

今おっしゃられました紙類なんですけれども、紙類につきましては、国崎クリーンセンターのほうには持込みはしておりませんでし

て、別の紙を回収する専門のところがござい
ますので、そちらのほうに持込みという形に
なっております。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

失礼しました。町独自で集めてるもんね、
子ども会と。ごめんなさい、私はよく持ち込
むんですわ。すいませんね。

ということは、絶対しちゃんらんとというこ
とですね。大きいちょっと厚めのなんか持つ
てっちゃうんですけども、町のほうに出しま
す。はい、分かりました。ありがとうございます。

それです、これから総量減らしていく
には、やっぱり資源ごみをまず減らして、資
源ごみって言い方も変かな、缶やらペットボ
トルやビン、布、プラスチック容器なんだけ
ども、この中でですね、特に豊能町は缶が多
いんですね。これはごめんなさい、令和4
年のデータです。施設組合のほうの。なんで
すけど、これってたんぼぼの家にも、一つの
事業としてやっていたと思いますので、そう
いうふうなほうにぜひ住民に働きかけていた
だくとか、そういうふうな今後の何か町とし
て、この総量減量に向けた何か取組を考えて
るのかお尋ねします。

○環境課長（中井 哲君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

今おっしゃいました資源ごみなんですけれ
ども、例えばペットボトルですとか缶ですと
か、そういったものなんですけど、もちろん国
崎のほうに持ち込まれて、国崎のほうからま
たいいわゆる売却ですね、幾らかの収入にはつ
ながっておりますので、その収入につなが
ってる部分につきましては、ごみ処理経費から
差っ引きまして、残った分を各市町が負担し

ているということになりますので、もちろん
国崎のほうに資源ごみのほうが集まりますと、
ある一定ですね、負担金のほうが下がってい
るというところにはつながっているところで
ございます。

また委員おっしゃられましたように、町の
ほうで、分別して回収していく新たな取組と
いうことで、ちょっと今後検討のほうさせて
いただければと思います。

よろしく願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

缶々の話出てきてちょっと私も大丈夫かな
思ったんですけどもね、14年度以降はあんまり、
そしたらビール飲まんほうがええんかなとか
ね、今パッと思ったんですけど、今の話やっ
たら、ビールの缶々をクリーンセンター持つ
ていっても、結局それをリサイクルするとお
金が入ってくことで、その場合変な比較や
けども、ビールの缶々、何グラムか知らない
けども、それをクリーンセンターに持って
いったときに、その分の重さの分が、いわゆる
この負担金に跳ね返ってくるけども、それを
売ることによって、その額が安くなるという
ふうなんやけども、ビールの缶々を国崎に持
ち込んで、そのことによって、この豊能町の
負担金が増える分と、逆にその缶々を売って収
益になる部分と、どっちが得なんですか。

もしも、国崎にビールの缶々持っていくと
ちょっと損するんやったらちょっと考えな
あかんのかなと思うけども、別に缶々国崎に持
っていっても、何とかその収益のほうを上回
るから、得やねっていうんやったら、今まで
どおりね、国崎のほうにビールの缶々持つ
ていってもらったほうがいいんかなあと思う
けどその辺り何か金額的なものは分かるん
ですか。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

今、委員おっしゃっておられたとおりですね、非常に悩ましいところなんです、具体的な数字というのはちょっとございませんでして、ただ、おっしゃられているとおりに思います。

ただ、広い意味でですね、資源を循環していく、あるいは分別していくということでは、きちんと分別をして、例えば国崎のほうに回収する。あるいは、いわゆる店舗なんかでの回収もされているところもありますので、そういうところに持ち込んでいただいて、きちんとそのリサイクルのほうですね、していくという循環型社会に向けての取組ってというのは、今後とも続けていかなければいけないというふうには思っております。

ちょっと具体的にどちらが得で損でというのはちょっとごめんなさい。数字というのはちょっと持ち合わせありません。

よろしくお願いします。

○委員長（池田忠史君）

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫）

すいません、都市建設部、坂田です。

補足なんです、特にビンとかなんかは今、きれいであれば、業者のほうも受入れしてくれるんですが、汚れてると受付してくれなくなってしまうので、そうすると国崎の負担が、増えてきますので。ですので住民の皆さんは、もしビンで飲まれたりしたときはきれいに洗って出すような工夫していただかないと、最終的には資源循環のほうに回らないで、国崎で処理するような形になってしまうという、そんな事態になってしまいます。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

またえらい事聞いたけども、ビールの缶々出すときに、中きれいに洗わなあかんの。私はばあっと振って滴が出るまで振って、それで出す。それじゃ駄目なんかな。中洗わなあかんの。ちょっとそれ確認させてください。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

きちんと洗っていただければと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

今までいろんな資源ごみ持ち込んで、それは、ここは細かくどの自治体からどのぐらい入ったって書いてんですけども、これは全部一括して一市三町の収益ですよ。それだけちょっと確認したいんです。各自治体に戻るもんじゃないですよ。一市三町の収益ですよ。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

集められて売却等された、いわゆる国崎クリーンセンターとしての収入になりますので、いわゆる持ち込まれたごみから発生した収入につきましては、ごみ処理負担金に係る経費から、差っ引きまして補助しまして、残った部分を各市町で負担していくという、そういうものでございます。

はい、よろしく願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

各お店のほうでもトレイとか何か分別回収してますよね。そういったものは、今の話で

すと事業系のごみとして豊能町の集めたもの、豊能町の資源として、一市三町に入ってるという理解をさせてもらったんですけども。ということは、住民にとっては、日々のプラスチックの容器包装に出す。出しても出さなくても同じっていう理解でいいですか。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

委員おっしゃるとおりですね、スーパー等で集められた事業系のものも豊能町で発生したものであれば、国崎のほうに持ち込まれますので、結果としては行き先は同じということになります。

○委員長（池田忠史君）

ちょっと確認なんですけど、事業系で例えば、お店さんで集められてるやつは、必ず国崎に行ってるんですかね。その店によってはそのごみを一括でどこかに集めてほかのところに出示するとかっていう可能性もあるんですけど。それは店舗さんに聞かないと分からない話なんで、今ここでどうこうじゃないんですけど、その辺はどの辺まで把握してるというか、分かっていますか。

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

ちょっとそこまではちょっと、今、把握はできてないです。

○委員長（池田忠史君）

どうぞ、秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

基幹的設備のほうは過去のデータですから、これ今さらどうのこうのじゃなくて、そうなんですっていうことなんですけど、これから総量で施設管理の運営費が決まるということになったときは、町としてこの総量減に向けてどのような取組をしていくんですか。そこまでは決まってない。

よく環境課の方がいろんな豊能のイベントの中で、できるだけごみを絞ってくださいと。5グラム絞っただけで年間こんだけ違いますとか、おっしゃってますよね。

となると、私はしつこいですけども、家庭用の油なんか、絞る前にそこ持っていったら、どんだけ溜まるなあと。減るなあと。もっとキャンペーンしてちょうだいという話になっちゃうんですけども、そのほかに、町としてはどのような取組、確かこの間なんかの議論の中で剪定枝のことかなんかをおっしゃってましたし、その辺りのちょっと取組を、減量化に向けた、総量減量化に向けてどんな取組を考えてるのかお尋ねします。

○委員長（池田忠史君）

はい、中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

ありがとうございます。

委員おっしゃるとおりですね、いわゆる今、豊能町として取り組んでおりますのが、ひと絞りということ、生ごみを出すときに、ちょっとぎゅっと絞っていただきまして水分を切ると、そういうことによってごみの量が、可燃ごみの量を減らすという、そういう取組でございまして、これは総量になったとしても、共通していることでございますので、今後とも続けていきたいですし、あとおっしゃられました植木剪定枝ですね、これもチップ化をすることによって、国崎に持ち込むものを減らすことができます。油にしても、おっしゃるとおりですね、回収することによって国崎に搬入されるものを減らすことができます。

あと例えばですね、フードロスですね、いわゆる物を買って過ぎて、食材余らせて捨ててしまうような食材を減らすですとか、例えば、豊能町の場合ですとすごいマイバックの利用率ってのは非常に高いんですけども、マイ

バックと同じように、例えばマイペットボトルといいますかマイボトルですね、ペットボトルをできるだけ出さないようにする、そういった形での取組っていうのを、今後広げていければというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（池田忠史君）

ほかにございませんか。

永並議長。

○議長（永並 啓君）

すいません。

これは川西市が男気を見せたということではないんですかね。可燃であると川西も減ってきて、いや、交渉の過程として川西と猪名川と一番大きなところ二つが、豊能、能勢が小さいですね。そこにこう押し込まれたわけではなく、我々としても得だったというところの理解でいいですか。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

おっしゃるとおりでございます、ほかにですね、いわゆる負担金を決めておられるところ、全国的には、例えば均等割の分を設けるですとか、人口割の部分の設けるとかいったそういったところもございまして、そういう要素を入れますと、ほかの三町の割合、非常に大きくなります。そうなりますと川西市のほうが有利になるんですけれども、他の三町のほうが非常にちょっと不利といいますか、額が上がるということでその辺のことを置いて、取りあえず一番公平になるような形でのお話を進めていただけたというような形でございます。

おっしゃるように、可燃ごみだけにしますと、非常に減量が進んでいる川西市にとっては有利になりますので、その辺を踏まえた形での議論をしていただいたという、そういう

ものでございました。

ありがとうございます。

○委員長（池田忠史君）

永並議長。

○議長（永並 啓君）

広域行政であるときは、大きなところが率先して負担をしてもらわないと、ちょっと若干水道がちょっと違うんで、そこら辺を参考にしてもらえればいいかなと思ってるんですけど。

あと、これを何か慎重に発信しないと、何かリサイクル、分別とかなんかしなくてもいいような感じにとられかねないかなあという感じはするんです。今可燃ごみ減らせば、負担金も減りますよっていうPRの仕方ですね。そしたら積極的に分別をしましょうということと言えましたが、これからは全部の量だつてなると、極端に言うと可燃ごみの中にペットボトル入ってても、向こうに行ったら一緒っていう扱いになってしまうんですね。そうすると、本当にPRのほうを慎重にしないと、リサイクル、循環型社会に逆行するような、一時大阪市が何でもかんでも燃やしてしまうぐらいの炉の性能がいいからってというような発想にも一時振ってましたよね。だからそういう形にならないかなというところが懸念されるんですけど、そこら辺はいかがですか。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

もう議長おっしゃられるとおりだと思いますので、その分につきましては、しっかりと啓発、PRのほう進めてまいりたいと考えております。

ありがとうございます。

○委員長（池田忠史君）

永並議長。

○議長（永並 啓君）

先ほど、中井課長が言われたようにペットボトルを持ってマイペットボトルでいくっていう、あとはリターナルビンとか、豊能町独自のちよっとう減量できるような方法というものをぜひ考えていただきたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

要望ですね。

はい、秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

附則のところに、第2条の規定は令和14年で書いてあるんですけども、これ14年にする理由っていうのは、あれも一緒ですよ。施設管理費・運営経費も今話したように、総ごみ量になるのは14年からってことでいいですよ。

違うのかな。そこ間違ったらちょっと申し訳ない質問なんだけど。だとしたら、なぜ14年なんですかっていう質問です。

○委員長（池田忠史君）

中井環境課長。

○環境課長（中井 哲君）

はい。環境課、中井です。

基幹的設備改良経費につきましては、令和8年度からという形になります。

施設管理・運営経費につきましては、14年度からということになるんですが、14年度からにしてるとい理由なんです、令和12年度中にですね、製品プラスチックの分別収集が始まる予定です。製品プラスチックですね。今は製品プラスチックは可燃ごみとして一緒にね、混ぜて可燃ごみとして収集しているところなんです。それを12年度からは分けて収集することが始まるということでして、その実績が反映されますのが、14年度ということになりますので、それに合わせて施行するという、そういう趣旨でございます。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

容器包装とは別に、例えばハンガーとかプラスチックありますよね。あれをまた別途資源として集める。だから、それが12年からになるから、総量としては14年度からですという、だから14年度。分かりました。

○委員長（池田忠史君）

はい、ほかございますか。

よろしいですか。

質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

（「なし」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

討論を終結いたします。

これより採決を行います。

本件は、原案のとおり可決と認めることに賛成の方は挙手を願います。

（全員挙手）

○委員長（池田忠史君）

挙手全員であります。よって、第61号議案は原案のとおり可決されました。

次に第62号議案、令和7年度豊能町一般会計補正予算（第7回）の件、関係部分を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

順次発言を求めます。

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

行財政課、寺倉です。

それでは第62号議案、令和7年度豊能町一般会計補正予算（第7回）の件につきまして、関係部分に係る提案理由を御説明申し上げます。

着座にて失礼いたします。

御手元の補正予算書の8ページを御覧ください。

第2条といたしまして、繰越明許費の補正でございます。第2表 繰越明許費補正（追加）に記載のとおり、Jアラート受信機等更

新事業及びため池防災減災事業につきまして、年度内に事業完了する見込みがないため繰り越すものでございます。

次に、9ページを御覧ください。

第3条といたしまして、債務負担行為の補正でございます。第3表 債務負担行為補正（追加）に記載のとおり「とよの議会だより」印刷製本事業、本会議会議録調製事業、財政管理事業、個人住民税システム改修事業、ごみ収集事業につきまして債務負担行為の追加を行うものでございます。

続きまして、補正予算書10ページを御覧ください。

第4条といたしまして、地方債の補正でございます。こちら第4表 地方債補正（追加）に記載のとおり、16. Jアラート受信機等更新事業債、17. 体育施設整備事業債、18. 指定沿道賑わい創出支援事業債につきまして、今回の補正予算に計上しておりますJアラート受信機等更新事業、シートス改修事業、指定沿道賑わい創出支援事業に係る地方債を新たに発行するものでございます。

次に3ページ目のほうにお戻りください。

こちら第5条といたしまして、一時借入金の補正でございます。地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の最高額につきまして、会計年度内の一時的な現金不足に備えるため、最高額、仮の上限額を10億円追加しまして、20億円とするものでございます。

それでは、今回の歳入歳出予算の補正内容につきまして御説明申し上げます。

今回の補正につきましては、4月の人事異動等に伴う人件費の補正及び歳入の補正に伴う財源振替を行っておりますが、それらの説明は省略させていただきますので、御了承くださいますようお願いいたします。

では、最初に歳出について御説明申し上げます。

○委員長（池田忠史君）

奥広報職員課長。

○広報職員課長（奥 文彦君）

広報職員課、奥です。

それでは、歳出の説明に移らせていただきます。

21ページ、総務費、総務管理費、目1. 一般管理費の2. 人事給与管理事業、12. 業務委託料77万円でございますが、子ども・子育て支援金制度が創設され、職員に支給する給与から差し引く健康保険料と合わせて徴収することとなることから、給与システムを改修するための費用を増額するものでございます。

○委員長（池田忠史君）

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

行財政課、寺倉です。

続きまして、7. 基金管理事業でございますが、財政調整基金積立金につきまして、前年度繰越金から別途積立てを行う前年度の基金運用収入、利子ですが、あと寄附金分を控除しました額を積み立てるものでございます。

同じく、退職金等引当基金積立金でございますが、前年度の基金運用収入部分、利子です、こちらを積み立てるものでございます。

同じく、ふるさとづくり基金積立金でございますが、前年度の一般寄附金を積み立てるものでございます。

次に目5. 財産管理費の1. 庁舎等管理事業でございますが、町中型バスの修繕等に係る費用等が増額したことによりまして、修繕料を増額するものでございます。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。よろしくお願いたします。

次に目6. 企画費の2. 政策推進事業でございますが、旧双葉保育所解体工事に係る実

施設設計の業務委託料を増額するものでございます。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

次に目10. 防災諸費の2. 防災対策事業でございますが、国のJアラートシステムが更新されることに伴い、新システムに対応した新型受信機等を整備するための費用を補正するものでございます。

○委員長（池田忠史君）

中谷農林商工課長。

○農林商工課長（中谷康彦君）

はい。農林商工課、中谷です。

続きましてちょっと補正予算書のほう飛びます。32ページになります。よろしいですか。

補正予算書の32ページ、款7. 商工費、項1. 商工費、目1. 商工総務費の2. 商工事務事業、18の補助金の増額ですが、指定沿道賑わい創出支援事業におきまして、支出見込みが予算額を上回ったため補正するものでございます。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

続きまして5. 企業誘致事業でございますが、続いて33ページのほうを御覧ください。

余野地区商業施設開設負担金につきまして、土木造成工事等に係る費用を増額するものでございます。

歳出の説明は、以上でございます。

○委員長（池田忠史君）

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

はい。行財政課、寺倉です。

続きまして、歳入について御説明申し上げます。

それでは14ページを御覧ください。

款10. 地方特例交付金、項1. 地方特例交付金、目1. 地方特例交付金でございますが、今年度の地方特例交付金の確定に伴いまして、減額するものでございます。

次に款11. 地方交付税、項1. 地方交付税、目1. 地方交付税でございますが、こちらも同じく、今年度の普通交付税の確定に伴いまして増額するものでございます。

続きまして18ページを御覧ください。

款19. 繰入金、項1. 基金繰入金、目1. 財政調整基金繰入金でございますが、今回の補正による財源調整としまして、1億3,324万9,000円を減額するものでございます。

次に款20. 繰越金、項1. 繰越金、目1. 繰越金でございますが、前年度からの繰越金の確定に伴う補正でございます。

続きまして、19ページを御覧ください。

款22. 町債でございますが、先ほど第4表の地方債補正（追加）で御説明申し上げたとおりでございます。

説明は、以上となります。

御審査いただき御決定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（池田忠史君）

これより本件に対する質疑を行います。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

21ページをお願いいたします。

21ページの庁舎管理の事業ということで、町バスの修理っていうふうなことで費用50万2,000円上ってますが、これはどのような修理の費用なのかお伺いします。

○委員長（池田忠史君）

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

行財政課、寺倉です。

こちらの庁舎等管理事業の修繕料というこ

となんですけれども、これは全体的に言いますと本庁舎の例えば、下水管が故障したとかトイレが故障した、あるいは公用車の車検であったり故障による修繕ですね、そういったものをこちらの費目で支払いをしているところなんですけども、今回、ちょっと想定外というところで、町バスのラジエーターが故障しまして、それを交換するということで約50万ほどかかってしまいまして、このままいきますと年度内の修繕料の不足が生じる見込みであるということで今回増額補正させていただいたということでございます。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そのラジエーターそのものは、もう交換済みなんですか。まだこれからなんですか。

○委員長（池田忠史君）

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

こちらのほうは、交換済みでございます。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

その次、下なんですけどね、政策推進事業で、旧双葉保育所の解体費用のアップっていうふうに、先ほど説明があったのかなと思いますけど、これはアップになった何か理由とかあるんですか。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

こちら旧双葉保育所解体設計業務になりまして、東地区の公共施設再編整備に係るものでございます。

先日議会のほうでは、実施設計のほうの予算を認めていただいたんですけれども、令和10年4月の供用開始を目指すために、順序よ

くしていくために、今回双葉保育所のほうの解体のほうを始めていくというところで、設計業務の予算を上げさせていただいておるものでございます。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

ついでに質問で申し訳ないけど、解体工事に設計費要るの。要るんですか、この金額が。ちょっと理解できなかったんで。本当に思いつきのような質問で申し訳ないです。

○委員長（池田忠史君）

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

はい。都市建設部、田中です。

解体に伴う設計というのはやはり必要でして、請負業者を選定するときに参考数量表と図面を出します。その中の設計委託で何をするかっていうのは、その建物の中に鉄筋が何トン入ってるのかとか、コンクリート量がどれくらい出るのかとか、内装の仕上げ、それからアスベストの有無を調査してもらいますので、そういったところで設計委託が必要になってくるところでございます。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

後ろのほうですね。35ページやったかな。33ページですかね、余野地区商業施設開設負担金、これ659万円ね、何か土木工事の何かアップっていうふうに私書いてるんですけど、これは何がどういうあれで費用がアップになってるのか、説明をお願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

659万の内訳になります。土木造成工事に係る分が258万円、あとトイレの設置費としまして360万円とその他の外構工事で41万円というところで659万円になっております。

土木造成工事につきましては、地盤改良とあとグレーチングなどの設置費用となっております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

その33ページのとこなんですけど、1、2年前に土木工事に関しては、コメリと面積で按分して、町負担分1,600万ぐらいだったと思うんですね。そのときと様子が変わったってことですか。トイレのこともよくちょっと理解できないので、その後、方向性が変わったのかどうか、御説明をお願いします。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

コメリの町の負担分につきましては、ちょっとお待ちください。すみません。

令和6年の3月議会で補正予算をさせていただいております。そのときには、2,860万円で、繰越しと合わせて3月補正をさせていただいております。今回それから659万円の増というところで補正予算をお願いしている状況になります。

その3月の補正予算のときには、人件費であるとか物価高騰というところで、当初1,600万の負担金の予算を上げておったんですけれども、それを全て減額しまして、新たに2,860万円の補正をさせていただいたというところになります。

659万の状況につきましては、土木造成工事等につきましては当初予定していなかった

地盤改良と、あとグレーチングとフェンス設置というところで、今回の補正予算ということをお願いすることになっております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

確認します。6年の3月に2,860万円で、それで11月議会だったと思うんだけど、1,600万になって、減額して1,600万になったのかな。プラスかな。2,860万円足す1,600万円足す今回の659万円という理解かな、まず。

○委員長（池田忠史君）

山内総合政策課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

町の負担金、最終的な総額で言いますと3,519万円になります。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

大西政策監。

○政策監（大西隆樹君）

はい、大西でございます。おはようございます。

当初、一番最初にこの工事を決定するときに1,600万上げさせていただきました。その後ですね、人件費とかそれから物価高騰の関係、それから地盤改良等の必要性が出てきたことから1,260万円ぐらいの補正をさせていただいております。その時点で2,860万円、少しちょっとお金の流れは、お話しすると長くなりますので、大体2,860万円になりました。

今回新たな土木工事、それからフェンス、それから新規トイレ等の設置の必要性が生じたので、改めて659万円を補正させていただきまして合計3,500万円程度の工事といえますか、負担金をコメリ側にお支払いするというようなものになります。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

もともとね、法貴峠の土持ってきたりなんかして、かなり工事費なんか安く済んでると思います。

今回またこれ出てきたということで、もう工事も12月10日かな、オープン。ということは、もうこれ以上の負担はないという理解でいいのかな。

それとも、そのあと何かしらのまだ負担金が出てくるかな。今後のちょっと様子だけ教えてください。

なぜ今頃トイレなのかがちょっと理解できなかったです。

○委員長（池田忠史君）

大西政策監。

○政策監（大西隆樹君）

はい、大西でございます。

もう、一応最終、工事の完了はですね、3月末ぐらいまでには完了したいと思ってます。表側のコメリ側の分につきましては、御覧いただいたとおりに既に完成して12月10日オープンします。あと裏側であるとかそういった部分がまだできてないところがございますので、そこは、開店が落ちついた来年1月以降にですね、工事をしまして、何とか3月末までには完成していただけるというような見込みになっておるところでございます。

トイレにつきましては、当初、公園を予定しておったんですが、コメリさん側のトイレをお借りできたということで考えておったんですけれども、ある程度このにぎわいも含めて考えていきますと、コメリさんのトイレは、男女1基ずつしかございません。たくさんの方が来られますとですね、当然そこはコメリさん側の負担にもなってきますので、その負担を軽減するために、トイレの設置をお願いできたらというような、コメリさん側

からの要望もありまして、こちらにもにぎわいをつくる上でその程度はやっぱり設置するべきであろうということで、今回、補正を上げさせていただいているものでございます。

○委員長（池田忠史君）

ほかございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

また21ページをお願いいたします。

説明のところで基金管理事業となっていて、5億1,000万円ですかね、財政調整基金に積み立てるというふうな金額、これ5億1,000万。少し戻っていただいて、入のほうかな、18ページをお願いします。財政調整基金繰入金、これが元々8億5,000万やったのかな。それが1億3,000万減らしますということなので、これ両方プラスすると6億何千万かな、6億3,000万ぐらいなのかな、いわゆる財政調整基金が言うてみたら上積みできるみたいなそういうふうな感覚で捉えたらよろしいんですかね。

○委員長（池田忠史君）

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

はい。行財政課、寺倉です。

委員おっしゃるとおり、昨年度の繰越金を積立てて財源調整して、今回予算としては8億5,000万ぐらい取り崩すものを1億3,000万減額するということで、おっしゃるとおり基金は、予算上は増えるという形になります。

今回の補正を受けまして、現時点で予算ベースでの基金なんですけれども、財政調整基金というのは、15億2,327万5,000円。15億2,327万5,000円が予算上の財政調整基金の残高という形になります。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

才協です。

32ページの指定沿道賑わい創出支援事業補助金なんですけど、これは具体的にお店とか分かるんですか。聞いていいのかしら。

○委員長（池田忠史君）

はい、中谷農林商工課長。

○農林商工課長（中谷康彦君）

農林商工課、中谷です。

今回補正上げてる具体的な店舗ということで御回答させていただきます。

今出てますのは、吉川地区で2件出ております。両方ともカフェということで、2件上がっております。その分になります。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

Jアラート事業なんですけど、これもう一度ちょっとこれ説明してもらえます。Jアラートの。21ページですね。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

総務課、田中です。

このJアラートシステムなんですけども、こちら、国のほうが運用しておるシステムでございまして、全国瞬時警報システムとも言われております。緊急地震速報ですとか、津波速報、それから弾道ミサイル発射情報等といったそういった緊急情報をですね、国のほうから流れてきまして、それを本町の防災行政無線と連携しまして瞬時に受けた情報を防災行政無線のほうで流すという運用をしておるものでございまして、今回その受信機のほうが経年劣化、国のほうからシステムを更新されるということで、受信機のほうも更新が必要だということで、今回この受信機を更新する補正を上げさせていただいてるというところ

でございます。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

聞こえにくいとことかの場所とか聞いてはりますよね。何言うてるか分からへんとか。例えばこだまして、山の中とか、そういうところの対処もしてくれはるんですか。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

はい、総務課の田中です。

今回のこの補正予算の中ではですね、そういった防災行政無線の通常のそういった調整というのは入ってないんですけども、ただ、年に1回ですね、保守業者のほうで点検という作業をしております、当然防災行政無線ですので、そのときの天候とか風向きとか、雨が降ってるとかそういった状況によって聞こえにくいというケースがあるんですけども、そういったところをお聞きした場合は、ちょっと調整という形で、若干向きを調整したりとか、そういったことは年に1回、点検作業の中でやっておるところになります。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

Jアラートのこの機械の問題じゃないと思うねんね。もう、地域的な問題で、山削るしかないそんな感じなんですけど、ちょっとこれね、本当に聞こえにくいところが旧村ではあるんですよ。何か言うてるんですけど、何を言ってるか分からないっていうところ。ちょっとこの辺もちょっと考えて、国のほうにも要望してできるようにしてほしいなと思います。

○委員長（池田忠史君）

田中総務課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

国のJアラートシステムにつきましては、そういった先ほど申しました緊急情報を全国の市町村に伝える、情報を受けるところが、Jアラートシステムになっておりまして、それを受けて防災行政無線で流すというのは自治体のシステムになります。聞こえにくいというところは無線の性質上そういったところはあるんですけども、そこについては日々そういったことをお聞きしてるところもございますので、また今後もですね、保守業者のほうに点検の中で、そういう調整ができる部分については、していただけるように調整を図ってまいります。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

8ページをお願いいたします。

繰越明許費補正（追加）ということで、2項目め、農業費でため池防災減災事業ということで、あれは全員協議会のときでの説明だったと思いますが、地元との調整が長引いているというふうな説明だったように私書いているんですけども、地元とのどういう調整が長引いているのか、その辺り御説明していただきたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

吉澤建設課長。

○建設課長（吉澤 亘君）

はい。建設課、吉澤です。

ため池のほうですけども、ため池自体の所有者もありますし、近隣の土地をお持ちの方もいらっしゃるしまして、別にいらっしゃいますので、その方々とその工事を進めていくための道をつくるのに、予定よりもちょっと違う方法のほうが安全だろうということで、近隣の土地の所有者の方と再度また調整する必要が出てきまして、そこにちょっと時間がか

かっているという状況であります。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

33ページの土木、18番のがけ地、このマイナス800万ですけど、これは該当がちょっとなかった、少なかったということですね。

ちょっと説明してもらえますか。

○委員長（池田忠史君）

吉澤建設課長。

○建設課長（吉澤 亘君）

はい。建設課、吉澤です。

がけ近のところの補助金、引っ越しとかそういう場合、今年度については、その申請が全くなかったの、補助金の申請もできませんので、その分を減額という形をとらせていただきました。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

がけ地で移転せなあかんような場所は、かなりありますよね。大体どれぐらいあるんですかね。

ちょっとこれね、物すごく怖い話、私の知り合いも、そういうところに住んで引っ越しする体力もない。そしたら、がけをね、護岸整備っていうの、何ていうの、そういうこともできないところなんですよね。この辺を町はどういうふうに考えておられるか。ここで言うべきことかちょっと分からないんですけど。

○委員長（池田忠史君）

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

はい。都市建設部、田中です。

この補助事業は、レッドゾーンにあるところの家屋に対しての補助メニューが幾つかあ

るわけなんですけども、移転をするための補助、それから補強するための補助とかがあるんですけども、元々このレッドゾーンの指定というのが、ごくごく最近指定されましたので、昔からそこに住んでおられる方については、とんでもないことになってますので、それに対する国、府、町の補助っていうのがあるんですけども、なかなかこれが実用されないっていう現状がありますので、池田土木さん、大阪府も初めどういったPRをしていけばいいのかっていうところが、検討課題であるというようなことが、この間の集まる会議等でも議題になってたというふうには聞いております。

本町としまして、西地区のほうで移転と除却に対する補助の実績があるんですけども、それ以降、旧村のほうではなかなか、こういったところに手を挙げておられる方がおられませんので、今後も引き続き大阪府とも調整しながら、うまくPRできて、実際には、金額がもうちょっと欲しいとか、そういったことにつながるのかも分かりませんが、ちょっと検討していきたいというふうには考えております。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

こういった課題が、すごく命に関わる問題ですから、こういうところのことじゃないかと思いますが、ちょっとこれ国にちょっと調整して、ちょっと安全確保できるようにしてほしいなと思います。

○委員長（池田忠史君）

吉澤建設課長。

○建設課長（吉澤 亘君）

はい。建設課、吉澤です。

先ほども田中次長のほうが言いましたように、大阪府と国からも補助金が出ますので、それがうまくPRできるように、また今後検

討していきたいと思います。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

32ページの先ほど才協委員のほうから質問あって、指定沿道賑わいの支援事業のことで、最初これ説明していただいたときに、予算額を超えたために補正するっていうふうな説明だったと思うんですけども、となったときのその内容ですが、最初1件だったのが2件だったということなのか、最初から2件があってそれぞれに負担が増えたのか。結果的に予算という全体の事業費ってのはどのぐらいになるのか、お尋ねします。

○委員長（池田忠史君）

中谷農林商工課長。

○農林商工課長（中谷康彦君）

農林商工課、中谷です。

今回出てきた2件といいますのは、年度が変わってから出てきたもので、予算としては1件分を見ておりました。1件出てきて、そのあとまたもう1件追加ということで、総額は、元々1件分の300万プラス今回の229万9,000円ということで529万9,000円。2件分ということになります。

ただこれ今、交付決定額なんで、満額までいかへん場合がありますので、実績はこれ以下になる可能性はございます。そんなに大幅には変わらへんと思いますが、そういうような状況です。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

理解できなかったんですが、ごめんなさい、予算は全部で529万。分かりました。

じゃ、もう一つ質問あるんだけどいいです

か。

○委員長（池田忠史君）

どうぞ。

○委員（秋元美智子君）

戸籍のほうの振り仮名の件です。

○委員長（池田忠史君）

それは、このあれじゃないんで。

○委員（秋元美智子君）

違ったっけ。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

すいません、戻って。PR方法、PRを強めるとおっしゃいましたが、今まではどういったPRをされてましたか。というのがね、これ東地区だけの問題じゃないね。西地区も私がしょっちゅう行くところなんか、そこ袋小路になってるんだけど、1件しかない。住んでるところが。がけが危ない、後で分かったって。PR方法、今までどういうふうにPRされてましたか。

○委員長（池田忠史君）

吉澤建設課長。

○建設課長（吉澤 亘君）

はい。建設課、吉澤です。

広報とそれからホームページ、自治会長のほうでチラシをお配りして、そういう方がいらっしゃったらお声掛けしてくださいということでお願いをしているところです。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

それに対してどれぐらいの方が、お問合せありましたか。

○委員長（池田忠史君）

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

はい。都市建設部、田中です。

今までの実績をちょっと私の記憶なんですけど、3件。吉川地区で1件、ときわ台地区で1件、東ときわ台地区で1件でございます。実績になります。

ですので、問合せが3件で、実績が3件で、今までのパターンでいきますと、お問合せがある方がそのまま補助申請までつながったということになります。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

今の才協委員の質問の関連なんですけど、となると、町のほうは相手が言うてくるのを待ってるというふうにしか聞こえないんですね。そうじゃなくて町として何軒ぐらいあるか、それ把握ができてるんですか。

○委員長（池田忠史君）

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

はい。都市建設部、田中です。

過去に調べたかとは思いますが、申し訳ございません。データのほうが、はっきりした数字のほうが持ち合わせておりませんので。申し訳ございません。

○委員長（池田忠史君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

住んでる方によっては、自分とはまさかそういう対象ではないだろうと思ってる方もいると思うんですよ。私はもっと積極的に動いたらいいんじゃないかなと。具体的にはこの家はそうかなっていうふうなお宅には元々危ないですよっていきなり言うのも失礼かもしれないけども、ただそういうことはもっと、対象者に対して具体的に才協委員の話じゃないけど、PRしてっただほうがいいと思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

すいません。なんか話が膨らんで。

やっぱりね、旧村がいいとか言うて引っ越しされて来られてる方が、知らんと入ってる。危ないっていうのを知らないで入ってるところもある。だからそのときにそれをちょっと言っただけのほうがよかったかなあと思うんですよ。これからの話ですけどね。

○委員長（池田忠史君）

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

はい。都市建設部、田中です。

空き家に入ってきて、そんなこと聞いてなかったわっていうパターンでいきますと、個人で、もし売買をやられたのであれば、そういう抜け落ちがあるかも分からないんですけど、例えば仲介業者さん、不動産屋さん、宅建の方を通して御購入された場合であると、重要事項説明書の中に必ずここはレッドゾーンですよとか、イエローゾーンですよという記載はございますので、余り御存じない方は、それが何なのかっていうのも詳しく把握されないまま御購入をされて、そのあと、とんでもないところだったんだなというようなことにつながるのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

それを回避するにはどうしたらいいんでしょうかね、町は。

○委員長（池田忠史君）

そこはもう個人個人になるんで、ちょっとそこまで町に言うのは難しいと思います。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

今の話で、ゼロ件だったっていうのは、予

算として上がってるのにゼロ件だったじゃ済まないですよ。

やはり、ここじゃ次はどういうふうなPRをするのか。何が問題点で、今、次長のほうがPRのほうが問題ですよって言ったら、次はどういうふうにして、何件かでもこれ増やさないと駄目なんです。

レッドゾーンの方たちに何らかの対応はとってもらわないと、大災害が起こったときに、潰れるからレッドゾーンですよ。転居もありだし補強もありだし、なんかの対応を知ってしないのか、知らなかったというのは最悪ですよ。

やはりレッドゾーンの方とかには、それなりに個別に案内を送るとか、イエローゾーンの防災戸別受信機もそうですよね。イエローゾーン指定されてそこの方に戸別受信機、無料配付になってるけどそんなに広まってませんよね。何のためにイエローゾーン、レッドゾーンがあるのかって考えたらもうちょっとそこに対してこうですよって、自分の身を守ってもらうためにまずは自分の状況を知ってもらって、それを守る術として、戸別受信機があります。補強がありますっていうことを知ってもらわないと。その施策っていうものは必ず必要ですよ。

今回ゼロっていうのは、予算を上げてうまくいかなかったっていうことです。次どうするんですか。次どうしようかなPRを考えておられるかだけ、最後にお聞かせください。

○委員長（池田忠史君）

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

都市建設部、田中です。

どういうPRをしていくのかっていうのは、今後の検討課題ではあるんですけども、例えば、私のほうが今まで取り組んできたのは、耐震性のない旧耐震でできてる物件のところに

対しては、戸別訪問をしてビラを配ったりっ
ていうような対応をしてきましたので、それ
でも申込みがなかったっていう時もありまし
たけども、がけ近につきましても、それに近
いような対応が必要ではないのかなというふ
うには感じておりますので、府とも調整しな
がら、対応のほう検討していきたいと思っ
ております。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

これ、大阪府のホームページのほうに載っ
てるやつは、これは全部レッドゾーンじゃな
いってことですか。大阪府の土砂災害防止法
の指定状況っていうのがありまして、その中
に豊能町一覧でずらっとう載ってるんです
けど、それは全部レッドゾーンじゃない。

田中都市建設部次長。

○都市建設部次長（田中克生君）

はい。都市建設部、田中です。

レッドゾーンとイエローゾーンがアップさ
れてると思います。大阪府のホームページで。

○委員長（池田忠史君）

ということはあれですよ、一応町のほう
ではもう把握できるっていうことでよろしい
んですよ。

田中都市建設部長。

○都市建設部次長（田中克生君）

都市建設部、田中です。

エリア指定はされておりますので、そこに
家屋があって住んでおられる方に対しては、
対象になるということになりますので、何件
あるかっていうのはちょっと分からないんで
すけど、面指定されてますので、住宅地図と
かで照らし合わせれば分かるようなレベルで
す。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

ある程度把握できるんですから、やはりそ
れなりの対応はしていただきたいと思いま

すんで、よろしくお願いいたします。

ほか、何かあります。

ちょっと私のほうから。

21ページのバスの件なんですけど、町バス
ってもうあれですよ、もう修理していか
ないと維持できない状況になってて、一度廃止
する話もありましたけど、廃止してレンタル
等々ですと結局経費がかさむからバスを維
持するというので、今もバス維持している
形になってると思うんですけど。

これ、今後こういう修理がまだまだ増えて
くると思うんですけど、もう修理ができな
くなるまでバス使い続けるっていうことなん
ですかね。

寺倉行財政課長。

○行財政課長（寺倉義浩君）

行財政課、寺倉です。

委員長おっしゃるとおり、やっぱり年々老
朽化し古くなっていけば年々修繕費がかさん
でいくということになっていきます。

町バスももう2013年から使ってる。かなり
長く使ってますので、行革の中でもバスの運
用方法をどうするかということを検討中でご
ざいます。で、バスを今のような形で運行し
続けるのか、そうであればそれを買換える
のか、あるいはリースにするのか。同じサイ
ズのものをリースするのか、あるいは買換
えるのかということもありますので、そう
いったニーズとか含めまして、行革の中で検
討していきたいというふうに考えてございま
す。

○委員長（池田忠史君）

これ、小っちゃいバスでしたら、ここには
いないですけど、教育委員会が今度バス買
いますよね。使う時間帯で決まってると思
うんで、それ以外の時間帯で使わせてもら
うことも可能だと思うんですけど。町全体で
いうとそういうことも考えていかないと駄
目かなと思うんですけど、その辺はどう
なんですか。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

おはようございます。入江です。

御指摘のとおり教育委員会のほう、バスを調達しますので、その運行状況、まだちょっと学校が開校してどういう状況で使用していくのかいうところがまだ実績として出てませんので、そのような御意見も踏まえてですね、今後バスの運行どういうふうにするのかということとは検討していきたいと思っております。

○委員長（池田忠史君）

はい、西副委員長。

○副委員長（西 美江君）

33ページのコメリのトイレに戻るんですけど、町が負担してつくるトイレ、コメリのところのトイレって誰が管理するんですか。それ、町が管理するのかコメリが管理するのかっていうのを聞きたいんですけど。

○委員長（池田忠史君）

大西政策監。

○政策監（大西隆樹君）

はい、大西でございます。

どちらかというと町が管理ということに。最終的には町が管理ということになります。

ただ、裏の公園も含めまして、できれば管理いただける事業者を探してですね、一体的に管理できたらいいなというふうには思っておりますのでございます。

まだ最終決定はできてないんですけども、そんなイメージをしておるところです。

○委員長（池田忠史君）

ほか、ございませんか。

よろしいですか。

では質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

（「なし」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

討論を終結いたします。

これより採決を行います。

本件は、原案のとおり可決と認めることに賛成の方は挙手を願います。

（全員挙手）

○委員長（池田忠史君）

挙手全員であります。

よって、第62号議案は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付された案件は全て終了いたしました。

続きまして、その他について委員間討議を行う事項は何かございませんか。

はい、秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

委員間討議ということで、ちょっと一つ提案させていただきたいんですけど。

町もいろいろね、公共施設再編ですとか、これから進んでいきますし、この町の交通問題とかいろいろありますので、当委員会としても早く町の課題、あるいはそういった解決に向けて、どっか先進国、どんなテーマか私自身はこういうテーマはどうかと思いますけども、いろんな形でお話し合って、先進地域。先進国行っちゃったら大変ですよ、本当。視察のほうをね、早急に進めていただきたいなと思いますのでお願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

視察の件は、皆さんそれぞれ、今後何がいかというのを考えていただいて集約する形になりますので、総務建設に関わる部分で、ちょっと考えといていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほか、ございますか。

以上で本委員会を閉会したいと思います。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

異議なしと認めます。

よって本委員会は、閉会することに決定い

たしました。

これで本日の会議を閉じます。

本委員会の閉会に当たり、町長から御挨拶
がございます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

総務建設常任委員会の閉会に当たりまして、
一言御挨拶を申し上げさせていただきます。

本日提案させていただきました議案に対し
まして、今日もですね、非常に慎重に御審査
を賜りました。誠にありがとうございました。
適切にですね、御決定を賜りまして、重ねて
お礼を申し上げる次第でございます。

特にですね、61号ですね。猪名川上流広域
ごみ処理施設組合のですね、分担金につきま
してですね、今日、皆さん御議論いただいた
とおりでございます、さらなるですね、循
環型社会に向けてですね、豊能町がどう取り
組んでいくべきか、それを取り組むことで負
担金が減っていくということで、これは構成
市町がですね、それぞれやりますので、それ
ぞれがやりますと同じように下がっていきま
すので、負担割合は結局変わらないかも分か
りませんが、そこはしっかりと市町が
ですね、努力をすべきことだと私は思ってお
りますので、今日の御意見も踏まえましてで
すね、しっかり取り組んでまいりたいと思っ
ておりますので、よろしくお願い申し上げま
してですね、簡単ではございますが、本日の
終わりに際しましての御挨拶とさせていただきます。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

○委員長（池田忠史君）

これをもって総務建設常任委員会を閉会い
たします。

どうもお疲れさまでした。

午前11時05分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会総務建設常任委員会

委員長